

西伊豆健育会病院

山本 洋光(薬剤科 薬剤師)

- 功 績** 勤続29年目のベテラン薬剤師の山本薬剤科長は、これまでの経験を最大限に活かし、限られた人員の中で病院理念実現に取り組み成果を上げ、また薬業連携会議を継続し、地域の薬剤情報共有の仕組みを構築した功績
- 推 薦 者** 佐野 良一
- 推 薦 理 由** 山本薬剤科長は薬剤科の理念実現に向けて、これまでの経験と知識を駆使し少数精鋭で取り組みました。孤軍奮闘する姿は他の職員の模範と致したく、また薬業連携会議を継続し、地域の薬剤情報共有の仕組みを構築した山本薬剤科長を理事長賞に推薦いたします。

内 容

当院は24時間、365日救急を受け入れており、祭日、休日にも薬剤師が勤務し、患者さんに安心と安全を提供することが薬剤科の使命と考え、今年度の理念目標を①「365日薬剤師勤務体制実施」②「薬剤管理指導70件/月以上」③「50%以上の方がお薬手帳を持参している」としました。薬剤科の科長は勤続29年目を迎えるベテラン薬剤師、山本洋光です。6時30分より出勤し、仲田院長の回診の対応、夜間入院患者の薬の確認と、早朝から全患者の薬のオーダーに目を通します。当院は研修医が薬をオーダーすることも多く、山本薬剤科長は疑問に感じた時は即、研修医に確認します。その的確な質問内容に、研修医からはとても頼りにされています。また、山本薬剤科長は強面ではありませんが、院内のことは何でも知っており、細部にまで目が行き届くので医師、看護師からも絶大な信頼を得ています。山本薬剤科長は5年前より薬業連携会議を開催し、病院の薬剤師と調剤薬局の薬剤師が、患者情報を交換しあって共有する仕組み作りを始めました。当時、地域包括ケアシステム構築に向けて、どこも試行錯誤している中、先ずは顔の見える関係作りと、いち早く当院に関係者を参集しました。山本薬剤科長は地元出身であり、病院勤続が長く知識豊富で説得力があります。会議参加者からの協力も得やすく、薬剤情報共有の仕組みを構築し地域にも貢献しています。今年度、予定していた薬剤師の増員には至りませんでした。勤務を上手く調整し、休日不在日数が2日もしくは1日だけです。薬剤管理指導も昨年10月の89件を最高値として、H29年4月からH30年2月まで70件以上を維持しています。お薬手帳についても、入院時に必ず持参して頂くことを、本人またはご家族に伝え、目標の50%以上を達成しています。3月からは常勤薬剤師退職に伴い一人体制となりました。一人でも最高のパフォーマンスができるよう、これまでの経験を活かして業務計画を立て、取り組んでいます。何よりも山本薬剤科長の「理念を実現する」という強い意志を感じています。